

情報関連人材に関する調査結果概要

～クラスター分析による社会人の知識ニーズと学生の学びのギャップの見える化の試み～

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
参事官(エビデンス担当)

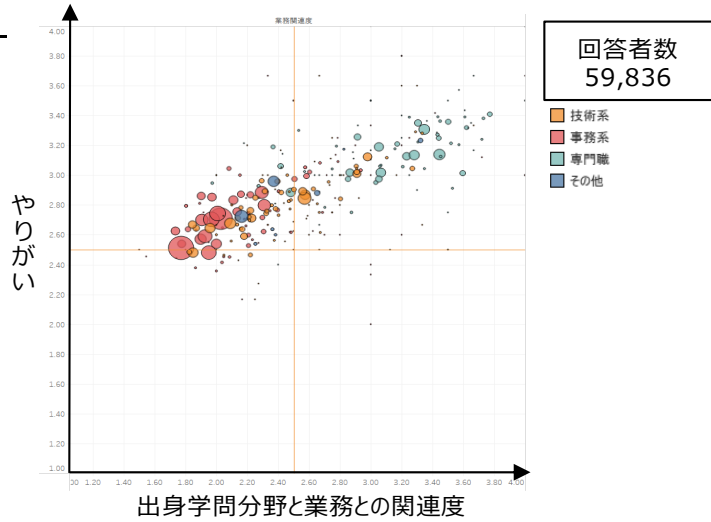


情報分野の社会人と学びの関係の分析結果①

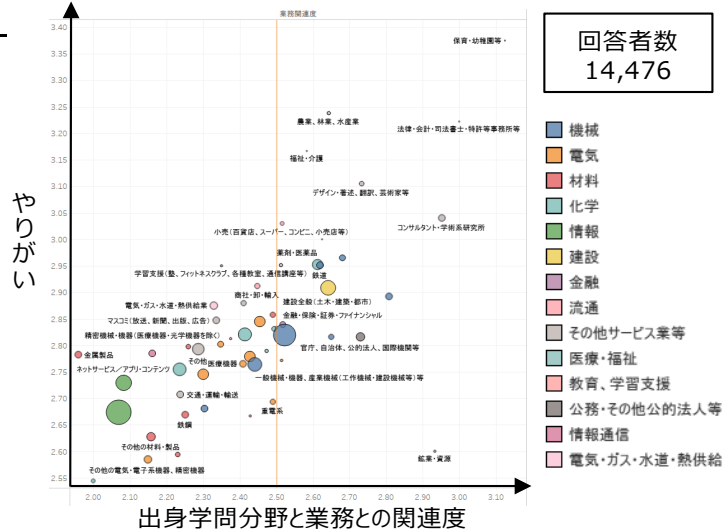
年齢（20歳以上45歳未満）、学歴（高等専門学校・大学院・大学院卒業・修了）、勤務形態（正社員、契約、自営業等）を条件に、社会人約6万人にWEBアンケートを実施。（実施時期：2021年6月）

＜出身学問分野・業務の関連度と「やりがい」との関係＞

出身学問分野と業務との関連度が高いと、やりがいも高い傾向。

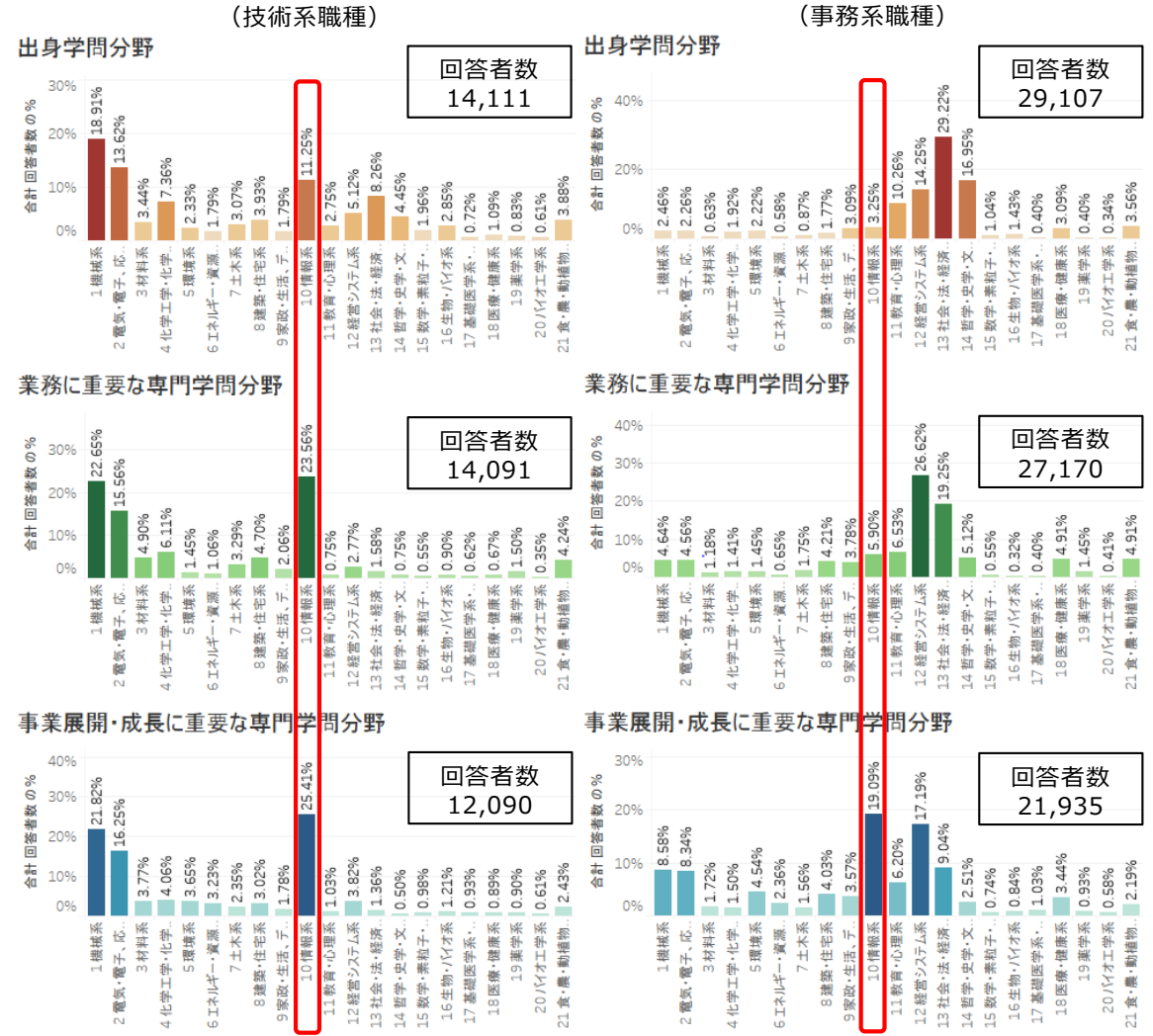


情報業種・技術職は、関連度・やりがいともに比較的低い傾向。



＜出身学問分野、業務に重要な分野、事業展開・成長に重要な分野＞

技術職だけでなく事務職においても、情報分野が事業展開・成長に重要な回答が多い。



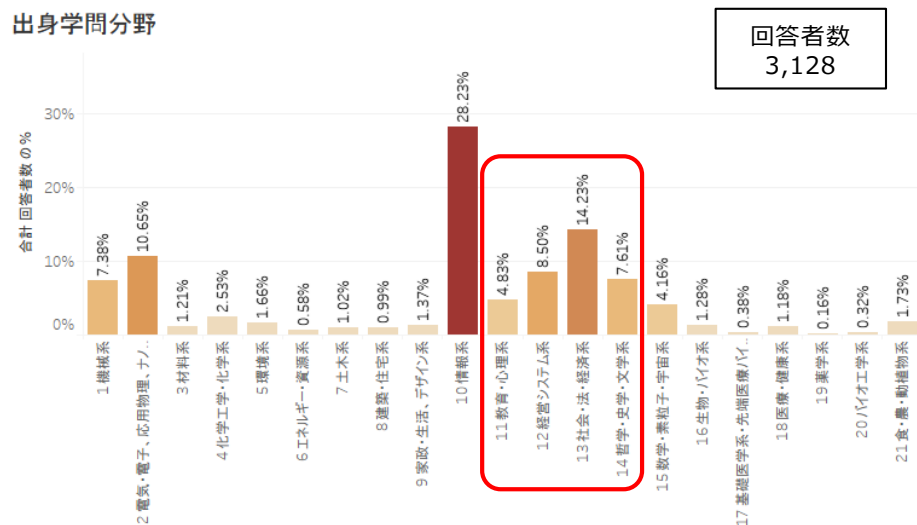
→ 学びはやりがいにも影響する可能性。足元の業務に加え、今後、情報分野の重要性はますます増大。

情報分野の社会人と学びの関係の分析結果②

年齢（20歳以上45歳未満）、学歴（高等専門学校・大学院・大学院卒業・修了）、勤務形態（正社員、契約、自営業等）を条件に、社会人約6万人にWEBアンケートを実施。（実施時期：2021年6月）

<情報業種・技術職における出身学問分野>

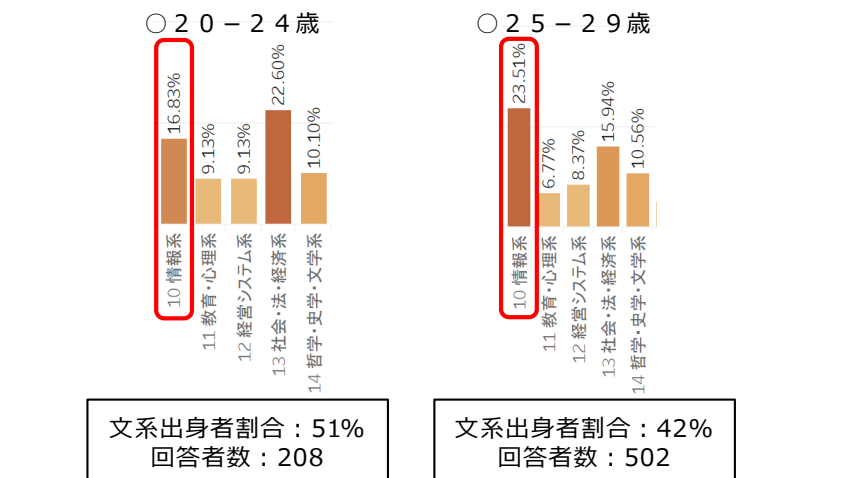
文系の出身者が多く、大学での学びと業務で重要な分野にギャップがある。



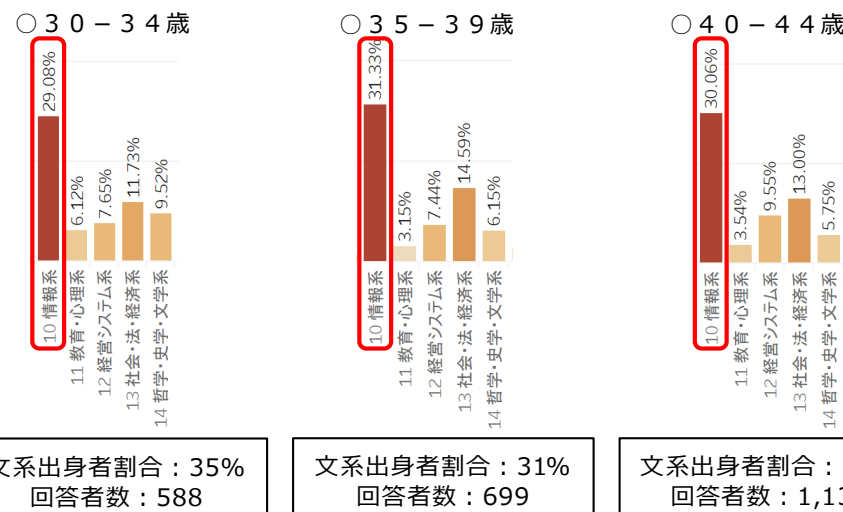
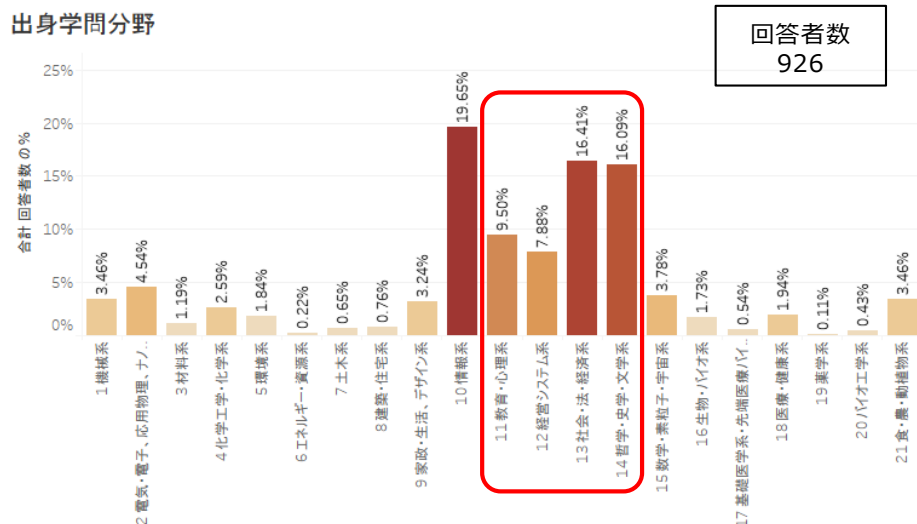
<情報業種・技術職における出身学問分野（世代別）>

若年層は情報系の出身者が少なく、文系出身者が多い傾向。

※出身学問分野のうち、情報系・文系のみ抜粋



女性の回答に絞り込むと、文系の出身者が多い傾向がより顕著になる。



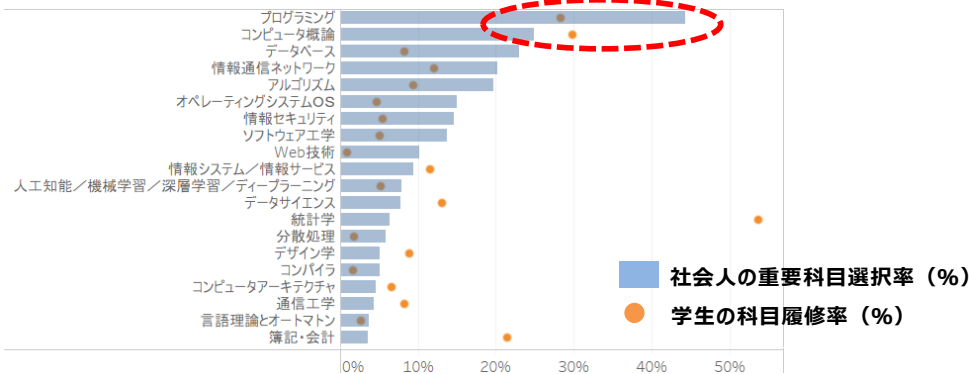
→ 業務における情報分野の重要性が高まる中で、社会のニーズに沿った情報分野の人材育成が喫緊の課題

情報分野の社会人の知識ニーズと学生の履修状況の分析結果

業務が情報分野に関連している社会人や情報系の職種に携わる社会人等（情報関連人材）のうち、約3,900人を対象に「業務で重要な科目」の類似性に基づくクラスター分析を実施。12万人の学生の履修データと比較し、情報分野における社会人の知識ニーズと学生の学びの状況を比較。

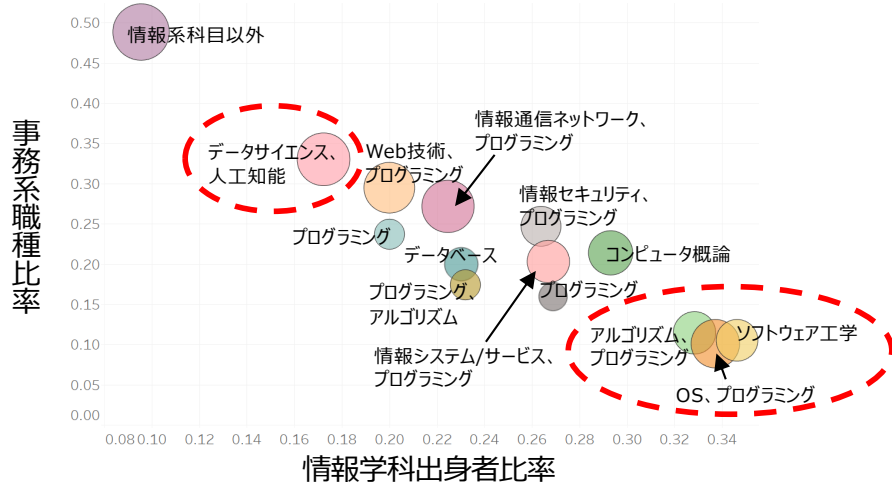
<社会人の重要科目選択率と学生の履修率>

情報関連人材の重要科目を履修した学生の履修状況を見ると、社会人のニーズの高いコンピュータ概論、プログラミングといった情報関連の基礎となる科目の履修率が高い他、データサイエンスの基礎となる統計学の履修率も高い。



<情報関連の社会人クラスターにおける職種・出身学科比較>

ソフトウェア工学やアルゴリズム等の開発系の科目ニーズは事務系職種の社会人には少ないが、データサイエンス・人工知能といった科目ニーズは情報学科出身者以外の社会人や事務系職種にも存在する。



(※) 各クラスターに表示している科目は、最重要科目とされる上位2科目が回答の75%以上を占める1科目。左下図における円の大きさはクラスターの人数を示す。右図における文系等には、福祉・スポーツ・生活・デザイン系、文学・教育系、社会科学系を含む。

<各クラスターにおける重要科目と学生の履修状況の比較>

いずれの社会人クラスターにおいても文系等の出身者が3割を超えている一方で、各クラスターにおいて重要とされる科目を学ぶ学生は情報学科をはじめとした理系に多い。

